

# 日本語の「出る」「出す」とキルギス語の *čik-*, *čigar-* の対応関係

## Correspondence Relations between Japanese Verbs *deru*, *dasu* and Kyrgyz *čik-*, *čigar-*

アクマタリエワ ジャクシルク

AKMATALIEVA Jakshylyk

Japanese has compound verb constructions with *deru* ‘to come out’ or *dasu* ‘to get out’ as the second verb, such as *nagare-deru* ‘to flow out’ and *kangae-dasu* ‘to come up with’. Similarly, Kyrgyz uses *čik-* ‘to come out’ and *čigar-* ‘to get out’, as in *agip čik-* ‘to flow out’ and *oylop čigar-* ‘to come up with’. In many cases, however, Japanese compound verbs containing *deru* or *dasu* have no directly corresponding Kyrgyz forms in *čik-* or *čigar-*. Although some verbs exhibit a perfect match both formally and semantically, such as *nagare-deru* ~ *agip čik-* ‘to flow out’ and *kangae-dasu* ~ *oylop čigar-* ‘to come up with’ above, in many instances Japanese and Kyrgyz compound verb expressions do not match; for instance, Kyrgyz does not use *čik-* ‘to come out’ for the Japanese expression *ame ga furi-dasu* ‘it begins to rain’. Thus, when Kyrgyz or Japanese native speakers try to learn the other language, they may readily misuse the verbal compound form “V1 + V2” through the wrong application of their L1 form in the target language. This paper systematically analyzes the correspondences of compound verb constructions in Japanese *deru*, *dasu* and Kyrgyz *čik-*, *čigar-* based on their use with transitive and intransitive verbs in Kyrgyz, which might be helpful for learners of both languages.

キーワード：キルギス語，日本語，複合動詞，補助動詞

Keywords: Kyrgyz, Japanese, Compound verb, Auxiliary verb

## 0. はじめに

日本語には「出る」、「出す」を後部要素とする複合動詞が存在する(影山 2014、姫野 1999 [2018] 等)。例えば、「流れ出る」、「考え出す」などのような複合動詞があげられる。一方でキルギス語にも *čik-* 「出る」、*čigar-* 「出す」という動詞<sup>1</sup>が存在し、例えば、*agip čik-* 「流

---

<sup>1</sup> これらのキルギス語の動詞は補助動詞と呼ばれるものであるが、本稿では、「補助動詞」、「複合動

れ出る」、*oylop čigar-* 「考え出す」などのように使われる。

しかし、日本語の「～出る」、「～出す」に、キルギス語の *čik-*, *čigar-* が必ずしも対応するというわけではない。日本語を学習するキルギス語母語話者、或いはキルギス語を学習する日本語母語話者は、両言語のいわゆる「V1+V2」形式の動詞表現を学ぶ際に、母語にある用法をそのまま当てはめて使ってしまうことによって、誤用が生じる可能性が考えられる。

まず、日本語とキルギス語の表現が対応する場合と、対応しない場合を簡単にあげておく。

**ほぼ対応する場合** 形式的にも、意味的にもほぼ対応する。

例：「流れ出る」 *agip čik-*

「考え出す」 *oylop čigar-*

**対応しない、または「ずれ」がある場合**

・日本語の「雨が降り出す」に対して、キルギス語では *čik-* 「出る」が対応しない。以下の例では、キルギス語の *jaa-* 「降る」という動詞に *čik-* 「出る」という動詞が後続して現れるが、この場合は、*čik-* 「出る」は補助動詞として使用され、「ずっと雨が降り続けた」という動きの完了というアスペク的な意味を表すことになる。

例； *Tünü boyu jaan jaa-p čik-ti.*

夜中ずっと 雨 降る-CVB 出る-PST.3

「夜中ずっと雨が降っていた（ずっと降っていて今は降りおわった）。」

・日本語の「言い出す」は、キルギス語では *aytip čik-* 「直訳：言い出る」になる。日本語では他動詞の「出す」を使うのに対し、キルギス語では自動詞の *čik-* 「出る」が使われる。

・キルギス語の *ištep čik-* は日本語に直訳すると「働き出る」だが、キルギス語の意味は「働き終わった」という完了アスペク的な意味を表す。

このように対応する形式がある一方で、形式や意味に「ずれ」がみられるものも多々みられる。本稿の目的は、このような「ずれ」をキルギス語のデータから考えてみることである。その結果、日本語を学習する時、或いはキルギス語を学習する時に役に立つことができればと思っている。

---

詞」とあえて呼ばないことにする。

## 1. 問題提起

チュルク諸語の多くの言語にも本稿で取り上げる *čik*-「出る」と *čigar*-「出す」に相当する動詞が存在することが既に知られている。チュルク諸語について Yuldašev (1965: 81-83)、Nasilov (1978: 126)、Ščerbak (1981: 136-138)、キルギス語について Kudaybergenov (1987: 228)、カザフ語について Mamanov (1949: 57-58)、Muhamedowa (2016: 99-103)、アルタイ語について Tībikova (1966: 39-40)、Anderson (2004: 143-144) などでも *čik*- 相当の動詞が取りあげられている。そして、どの言語においても、*čik*- 相当の動詞は「動作の完了」を表すと共通して述べられている。しかし、いずれの研究も補助動詞の観点から記述されたものであり、*čik*-「出る」と *čigar*-「出す」が共起する自動詞と他動詞の出現に関する研究はほとんどない。

そこで、本稿では考察対象である *čik*-「出る」、*čigar*-「出す」の例文を収集し、自他動詞の出現について分析を試みる。

## 2. 調査方法

本稿の調査では、基本的にキルギス語新聞 *Kirgiz Tuusu, Ėrkin Too* のデータを用いる。それはキルギス語の標準語が使用され、比較的正当な用例が抽出できると考えるからである。また、場合によっては、文学作品やインターネット検索から調査の不足を補うこともある。

## 3. 調査結果

今回の調査結果から次のようなデータが得られた。データを数える際に、 $V_1$ -*p čik*-「出る」、 $V_1$ -*p čigar*-「出す」の形式を具体的に分析した。次の表は、今回のデータ結果を  $V_1$ 、 $V_2$ それぞれが自動詞か他動詞かで分類したものである。

[表 1] 調査結果

		自動詞・他動詞の組合せ	用例数
①	$V_1$ - <i>p čik</i> - (出る)	$V_1$ (自動詞) + <i>čik</i> - (自動詞「出る」)	473
②	$V_1$ - <i>p čik</i> - (出る)	$V_1$ (他動詞) + <i>čik</i> - (自動詞「出る」)	402
③	$V_1$ - <i>p čigar</i> - (出す)	$V_1$ (他動詞) + <i>čigar</i> - (他動詞「出す」)	191
④	$V_1$ - <i>p čigar</i> - (出す)	$V_1$ (自動詞) + <i>čigar</i> - (他動詞「出す」)	14
			1080

この表から分かる通り、 $V_1$ -*p čik*- の場合、自動詞+ *čik*- (自動詞)、他動詞+ *čik*- (自動

詞) は両方とも 400 例以上でほぼ同様に出てくる。一方の *V<sub>1-p</sub> čigar-* は *V<sub>1-p</sub> čik-* に比べると半分以下であるが、その中では他動詞+ *čigar-* (他動詞) が圧倒的に多い傾向にある。また、*V<sub>1-p</sub> čigar-* の場合、自動詞+ *čigar-* (他動詞) は数は少ないが、少なくとも 14 例はあった。

各項目について以下、詳しくみていく。

### 3.1. *V<sub>1-p</sub> čik-* (出る) の場合

本節では、まず、*čik-* 「出る (自動詞)」 の場合を詳しくみる。

#### 3.1.1. *V<sub>1</sub>* (自動詞) + *čik-* (自動詞)

今回の調査では出現した 473 例を表 2 のように分類して示す。調査分析の結果、*V<sub>1</sub>* (自動詞) + *čik-* (自動詞) の文の構造を考えると、【1】位置変化 (移動の方法・様態)、【2】出現 (自然現象、物事が世に出る・現れる)、【3】状態の生起、【4】動作の完遂を表すタイプがみられる。これらの中では、【1】位置変化、【2】物の出現 (自然に現れる) を表すタイプは日本語と対応できるものである。また【3】状態の生起の類は日本語と対応しにくい (日本語の場合、他動詞の「～出す」が使用される) のがほとんどである。また【4】の動作の完遂は、キルギス語では文法化が進んでおり、日本語にはみられない。

なお、*V<sub>1</sub>* (自動詞) + *čik-* (自動詞) の場合、他で見られる「始動」は現れない。日本語の場合も「*V<sub>1</sub>* (自動詞) 出る」は、「始動 (開始)」を表さない (姫野 1999 [2018] : 102)。

[表 2] *V<sub>1</sub>* (自動詞) + *čik-* (自動詞) の日本語との対応例

意味特徴 <sup>2</sup>	構文的な特徴	例文	該当する日本語 訳	日・ 有無 <sup>3</sup>
【1】位置変化 (移動の方法・様態)	《人 場所-ABL/DAT <i>V<sub>1</sub></i> (移動動詞)-CVB <i>čik-</i> 》	<i>čurkap čik-</i>	走り出る	○
		<i>učup čik-</i>	飛び出る	○
		<i>soylop čik-</i>	這い出る	○
		<i>kačip čik-</i>	逃げ出る	○

<sup>2</sup> アクマタリエワ (2021a) の意味分類である。

<sup>3</sup> 筆者自身の判断によるものである。また本稿のインフォーマントであるスマノワ・エルビラ氏 (キルギス共和国、ケミン町、1980 年生まれ (1996 年～2001 年、キルギス民族国立大学東洋学部日本語学科、2018 年日本語能力試験 2 級合格)) の聞き取り調査の結果も一部、反映している。

【2】出現 (表面に登場)	《物・事 V1(自動詞)- CVB čik-》	<i>önüp čik-</i>	生え出る	○
		<i>ösüp čik-</i>	伸び出る	○
		<i>tolup čik-</i>	あふれ出る	○
		<i>agip čik-</i>	流れ出る	○
		<i>kalkip čik-</i>	浮き出る	○
【3】状態の生起	《物・事 V1(自動詞)- CVB čik-》	<i>kalčildap čik-</i>	*震え出る	△
		<i>titirep čik-</i>	*震え出る	△
		<i>terdep čik-</i>	*汗をかき出る	△
		<i>kizarip čik-</i>	*赤くなり出る	△
		<i>kubarip čik-</i>	*青ざめ出る	△
		<i>sasip čik-</i>	*腐り出る	△
【4】動作の完遂	《物・事 V1(自動詞)- CVB čik-》	<i>ištelip čik-</i>	実現されおわる	×
		<i>tekšerilip čik-</i>	調査されおわる	×
		<i>basilip čik-</i>	刷られおわる	×
		<i>bolup čik-</i>	なってしまう / X ことになって しまう	×
		<i>kelip čik-</i>	～からきた / ～ できた	×
【×】始動なし				×

\*日本語には「～出る」という表現はないが、「～出す」(震え出す、汗をかき出す、赤くなり出す、青ざめ出す、腐り出す)は用いられる。

また今回の調査資料から、表3に示すような動詞の組み合わせも見つかった。これらは、上の表のV1(自動詞) + *čik-*(自動詞)と異なり、キルギス語では、もはや一つの複合語(補助動詞というよりも決まった表現)として考えられているものであり、辞書にも同じ組み合わせで載っているものである。意味の面からすると、原因関係をなしていると思われる。日本語では「出る」という動詞が使用されず、以下のような使い方をする。

[表 3] キルギス語では複合語として使用されるもの（意味が特殊化する）

	例文	日本語への直訳	日本語に該当する訳
原因関係 (出来事が2つ 行われる)	<i>darılanıp čik-</i>	治療してから出る	退院する
	<i>ayigip čik-</i>	完治してから出る	退院する
	<i>sakayıp čik-</i>	治ってから出る	退院する
	<i>jatıp čik-</i>	(刑務所に) 居てから出る	出所する
	<i>aktalıp čik-</i>	罪が晴れてから出る	放免される
	<i>bošonup čik-</i>	解放されてから出る	釈放される

3.1.2. V<sub>1</sub> (他動詞) + *čik-* (自動詞)

ここでは、V<sub>1</sub> (他動詞) + *čik-* (自動詞) の場合をみている。アクマタリエワ (2021a) の分類ごとに考察する。調査の結果、【1】位置変化、【2】動作の始動、【3】動作の完遂を表す傾向がみられた。両言語とも共通して使用されるのは、【1】位置変化の場合である。

[表 4] 位置変化を表す、他動詞 + *čik-* (自動詞)

意味特徴	構文的な特徴	例文	該当する日本語訳	日・有無
【1】位置変化	《人 場所 -ABL / DAT V <sub>1</sub> (移動動詞)-CVB <i>čik-</i> 》	<i>tosup čik-</i>	迎えに出る	○
		<i>kirip čik-</i>	入って出る	○
		<i>kidirip čik-</i>	歩き出る?	△
		<i>kuup čik-</i>	追い出る?	△

しかし、【2】動作の始動を表すのは、キルギス語のみにみられる。例えば、キルギス語では *ayıp čik-* は、動作の始動を表す。ただし、日本語では、「言い出る」とは言えず（ただし「申し出る」は言える）、「言い出す」と他動詞の「出す」が使われた時に動作の始動を表すことになる。また、キルギス語の場合、V<sub>1</sub> (他動詞) + *čik-* (自動詞) の場合に現れる「動作の始動」の意味はすべての他動詞が表すわけではなく、いくつかの活動動作動詞に限って用いられる (アクマタリエワ 2021a)。

[表 5] 動作の始動を表す、他動詞 + *čik-* (自動詞)

意味特徴	例文	該当する日本語訳	日・有無
【2】動作の始動	<i>aytip čik-</i>	*言い出る → 言い出す	○
	<i>čertip čik-</i>	*弾き出る → 弾き出す	○
	<i>jazip čik-</i>	*書き出る → 書き出す	○

また、次の【3】動作の完遂を表すのもキルギス語にのみ現れる。キルギス語の場合、V<sub>1</sub> (他動詞) + *čik-* (自動詞) が多く使われる。例えば、*ištep čik-*、*aniktap čik-* では、動作を最初から最後までやること、つまり動作の完遂という文法的な意味になる。

なお、日本語では、他動詞が使われる「思い出す」という複合動詞はあるが、キルギス語の場合、*čik-*、*čigar-* を使って「思い出す」を表すことはできない。キルギス語で「思い出す」に当たるのは *ěste-* という別の動詞になる。

[表 6] 動作の完遂を表す、他動詞 + *čik-* (自動詞)

意味特徴	例文	該当する日本語訳	日・有無
【3】動作の完遂	<i>ištep čik-</i>	働きおわる	×
	<i>aniktap čik-</i>	調査しおわる	×
	<i>jeŋip čik-</i>	勝ちとる	×
	<i>ěseptep čik-</i>	数えおわる	×

最後に、今回の資料から、次のような動詞の組み合わせも見つかった。これらは、上の表のV<sub>1</sub> (自動詞) + *čik-* (自動詞) には出現しなかったものである。この場合、V<sub>1</sub>は付帯状況(様態)を表す、つまり、ある物を手にとって*karma-*「持つ」と*čik-*「出る」という動作が同時に行われ、「何かを持って出る」という意味を表す場合である。

[表 7] V<sub>1</sub> が付帯状況を表す、他動詞 + *čik-* (自動詞)

	例文	日本語への直訳	日本語に該当する訳
付帯状況(様態)	<i>karmap čik-</i>	持って出る	持ち出す「出る×」
	<i>kötörüp čik-</i>	持って出る	持ち出す「出る×」
	<i>alip čik-</i>	持って出る	持ち出す「出る×」

### 3.2. V<sub>1</sub>-p *čigar-* (出す)

本節では、まず、*čigar-*「(出す) 他動詞」の場合を詳しくみる。日本語では、「出す」は

語彙的なふるまいだけではなく、文法的なふるまい（始動を表す、例：言い出す）をすることが知られている。しかし、キルギス語をはじめチュルク諸語の従来の研究においては、動詞 *čigar-* 「他動詞」は、補助動詞としても複合動詞としても取り上げられることはなかった。しかし、今回の調査では、日本語との対応を考えることから、*čigar-* 「他動詞」の用例も収集することとした。その結果、注目に値する数字が出現した。これらの動詞を無視することはできない。そこで、以下でその意味用法を考えてみる。

[表 8]  $V_1 + \textit{čigar-}$  (他動詞) の用例数

$V_1-p \textit{čigar-}$	$V_1$ (他動詞) + $\textit{čigar-}$ (他動詞)	191
$V_1-p \textit{čigar-}$	$V_1$ (自動詞) + $\textit{čigar-}$ (他動詞)	14

### 3.2.1. $V_1$ (他動詞) + $\textit{čigar-}$ (他動詞)

$V_1$  (他動詞) +  $\textit{čigar-}$  (他動詞) の場合、【1】創出、【2】位置変化、【3】動作の完遂の3パターンが現れた。日本語との対照を考えると、【1】創出、【2】位置変化を表す動詞類は日本語にもみられるが、【3】の動作の完遂は、日本語と対応しない。

総合的に  $\textit{čigar-}$  (他動詞) は、 $\textit{čik-}$  (自動詞) の場合と大きく異なり、「出現」、「生起」、「始動」のような文法的な意味を表さず、どちらかという、もっぱら、語彙的な意味が強い傾向にある。

[表 9] V1 (他動詞) + *čigar-* (他動詞)

意味特徴	例文	該当する日本語訳	日本語での有無
【1】 創出	<i>oylop čigar-</i>	考え出す	○
	<i>jasap čigar-</i>	作り出す	○
【2】 位置変化	<i>teep čigar-</i>	蹴り出す	○
	<i>kuup čigar-</i>	追い出す	○
	<i>aydap čigar-</i>	追い出す	○
【3】 動作の完遂	<i>ištep čigar-</i>	調べきる、調べ上げる	×
	<i>eseptep čigar-</i>	数え上げる	×
	<i>tandap čigar-</i>	選び抜く	×
	<i>dayardap čigar-</i>	備えつくす	×
✕ 生起	*他動詞+他動詞		
✕ 出現	*他動詞+他動詞		
✕ 始動	*他動詞+他動詞		

3.2.2. V1 (自動詞) + *čigar-* (他動詞)

今回のデータでは、V1 (自動詞) + *čigar-* (他動詞) は圧倒的に少ない。日本語の場合 (姫野 1999: 100)、「雨が降り出す」、「泣き出す」などのように「開始」の意味を表す場合に使用されることが多い。キルギス語の場合、これらは使われない。これらの複合動詞はキルギス語では、*čik-*, *čigar-* を用いて表せない。全体的にキルギス語では、V1 (自動詞) + *čigar-* (他動詞) が使われる頻度が少ない。

[表 10] V1 (自動詞) + *čigar-* (他動詞)

意味特徴	例文	該当する日本語訳	日本語での有無
【1】動作の 完遂	<i>ištelip čigar-</i>	実行されおわる	×
	<i>kelip čigar-</i>	なってしまう	×
	<i>bolup čigar-</i>	できあがる	×
✕始動	*自動詞+他動詞	<i>*jaap čik-</i> 「直訳：降って出る」 「日：雨が降り出す」 <i>*iylap čik-</i> 「直訳：泣いて出る」 「日：泣き出す」	×

#### 4. キルギス語母語話者への調査実施

筆者は、キルギス語母語話者<sup>4</sup>への聞き取り調査を実施した。姫野 (1999: 85) に挙げられている複合動詞 (V1-出る) 33 個 (例：走り出る、這い出る、飛び出る、溢れ出る、迷い出る等) をキルギス語に訳してもらった形で調査を行った。その結果は、次の通りである。

[表 11] 日本語の「外部に出る、移動を表す複合動詞」のキルギス語訳の結果

	日本語の「出る」に当たるキルギス語訳	用例数
1	<i>V1-p (CVB) čik-</i>	19
2	<i>čik-</i>	2
3	<i>čik-</i> 「出る」以外の移動動詞	4
4	全く異なる動詞	2
5	補助動詞	6
		33

今回は、日本語の「外部に出る、移動を表す複合動詞」に絞って、聞き取り調査を実施

<sup>4</sup> 本稿に当たり、キルギス語母語話者であり、また日本語学習者 (1980 年生まれ、現在日本在住、日本語学習歴 5 年以上) でもあるスマノワ・エルビラ氏に聞き取り調査 (キルギス語からの日本語訳、更に意味の解釈に関する聞き取り調査) を実施している。

した。その結果、「飛び出る」*čurkap čik-*、「這い出る」*soylop čik-*、「こぼれ出る」*tašip čik-*のようにキルギス語でも「V1-CVB *čik-*」形式に訳されたものは19例で一番多くみられた。また、*čik-*「出る」のみで訳された例は2例だった。例えば、「はみ出る」は*čik-*「出る」だけで訳されている。

今回の調査からは、「出る」ではなく、異なる動詞も使用されることが確認できた。例えば、日本語の「逃げ出る」はキルギス語で*kačip ket-*となり、*čik-*「出る」ではなく*ket-*「行く」という（移動）動詞が使われた。また、日本語の「走り出る」は、*jürüp bašta-*となり、*bašta-*「始める」という異なる動詞が使われる結果になった。

このように共通する点もあれば、一致しないもみられる。今後、外部への移動を表す動詞だけではなく、「V1+出る」を幅広く扱って調査する必要がある。

## 5. おわりに

本稿では、両言語の学習者の助けとなるよう、キルギス語の用例を、V1が自動詞か他動詞かによって分類し、V2に自動詞「出る」が用いられる場合、他動詞「出す」が用いられる場合それぞれについて、日本語との対応関係を整理して提示した。

## 謝辞

本研究は、科研費（研究課題18H03578、21J40129、21H04346）及び東京外国語大学AA研の共同研究課題「チュルク諸語における情報構造と知識管理—音韻・形態統語・意味のインターフェイス—」による成果の一部である。本稿の内容は、2020年度CSEL年次総会（2021年3月29日／オンライン開催）やキルギスにおける日本語教育開始30周年記念国際研究大会（2021年8月22日／オンライン開催）での発表内容に加筆、修正を加えたものである。コメントをくださったすべての方々、および言語コンサルタントの方々に感謝申し上げる。

## 参考文献

- Anderson, Gregory D.S. (2004) *Auxiliary verb constructions in Altai-Sayan Turkic*. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
- Kudaybergenov, Sarıbay. (1987) Kategoriya zaloga. In Zaxarova, O.V. (ed.), *Grammatika kirgizskogo literaturnogo yazıka 1: Fonetika i morfologiya*, 238-253. Frunze: Ilim.
- Mamanov, İbrahim Esenkulovič. (1949) *Vspomogatel'nye glagoli v kazahskom yazıke*. Alma-Ata.
- Muhamedowa, Raihan. (2016) *Kazakh: a comprehensive grammar*. London/Oxon: Routledge.
- Nasilov, Dmitriy Mihaylovič. (1978) Formi vırajeniya sposobov glagol'nogo deystviya v altayskih

- yazıkah. *Očerki sravnitel'noy morfologii altayskih yazıkov*. 88-178. Leningrad: Nauka.
- Ščerbak, Aleksandr Mixaylovič. (1981) *Očerki po sravnitel'noy morfologii tyurkskix yazıkov (Glagol)*. 136-138. Leningrad: Nauka.
- Yuldašev, Ahnef Ahmetovič. (1965) *Analitičeskiye formi glagola v tyurkskih yazıkah*. Moscow.
- Tibikova, Aleksandra Taybanovna. (1966) *Slojnie glagoli v altayskom yazıke*. Gorno-Altaysk.
- アクマタリエワ ジャクシルク (2021a) 「キルギス語の補助動詞 *čik-* についての予備的考察」、2020 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム (CSEL) 年次総会 (2021 年 3 月 29 日 / オンライン開催) .
- アクマタリエワ ジャクシルク (2021b) 「日本語とキルギス語の「V1+V2」型複雑述語についての対照研究」、キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念国際研究大会 (2021 年 8 月 22 日 / オンライン開催) .
- 影山太郎 (2014) 「語彙的複合動詞の新体系—その理論的・応用的意味合い—」影山太郎 (編) 『複合動詞研究の最先端 謎の解明に向けて』 3-46. 東京: ひつじ書房.
- 姫野昌子 (1999 [2018]) 「「～でる」と「～だす」」『複合動詞の構造と意味用法』 83-102. 東京: 研究社.